

## 自ら求めて獲得した知識こそが本物

既に述べましたやうに、“教育”の“教”といふ字は「父と子との交はり」を表した字であり、故に「子が親を見習ふ“学習”が“教”といふ字の本流である」といふことを重ねて強調して置きたいと思ひます。

つまり、教育は「親もしくは教師が子供を“教へる”こと」と考へ易いのですが、“教へる”ことは教育の本旨ではないのです。“自学自習”することが本旨なのです。論語にも「憤せざれば啓せず、<sup>ひ</sup>排せざれば発せず(自学してあと一步といふ所で理解しかねてゐる、といふ状態にまで至つてゐない場合には“啓発”、つまり教へてはやらない)」とあるやうに、大教育者たる孔子は、自学自習してどうしても解決できない場合に限り、“教へる”ことをしたのです。

教へられて得た知識といふものは、よく解つたやうに思へても、いざそれを人に説明しようといふことになると、いかにその理解が不十分なものであつたかといふことを思ひ知らされるものです。自学自習して獲得した知識とはその点が違ひます。

ではなぜ違ふかといひますと、自ら求めて得た知識といふものは、自分の頭を使って一步一步確実に理解を進めて行って到達したものですから、その過程がすべて明瞭になってゐるのです。だから、知識の

全休が一本の筋道にまとめられてゐて、それが頭にしっかりと記憶されてゐるので、いつでも取り出すことが出来るのです。

所が、教へられて得た知識は、その時はすべてがよく理解できたやうに思へても、実は所所に空白の部分があるもので、その空白があることに気が付かないものだから、すべて理解できたつもりであるのに過ぎたいのです。それで説明しようといふ段になつて説明できないと、忘れてしまつたと思ふやうですが、実は説明できないのは初めからその部分が空白で、完全な知識になつてゐなかつたせいであることが多いのです。

自分で捜し捜し歩いた道はよく覚えてゐるが、人に導かれて歩いた道は覚えてゐないのが普通です。それによく似てゐます。このやうに、自ら求めて獲得した知識こそ真の知識であつて、人生に役立つものであるが、教へられて得た知識は真の知識とは言ひ難く、「生兵法は怪我のもと」とやらで役立つどころか失敗のもとになりかねません。

生れつき脚の丈夫な者でも、脚を使はないでゐたら必ず脚が弱くなります。その反対に、生れつき脚が弱くても、毎日歩くことに努めてゐれば必ず脚が強くなるでせう。頭だつて同じことです。いくら良い頭だつて使はないでゐたら次第に頭の回きが悪くなるでせう。その反対に、悪い頭でもよく使へば次第に働きの良い頭になつて行くはずで

「頭を使ふ」とは「思考する」ことです。論語に「学びて思はざれば則ちくらし。思ひて学ばざれば則ちあやふし」とあります。孔子の言葉です。折角学習して知識を豊かにしても、頭を使って考へることをしないと働きの良い頭にならない、さうかと言ってただ考へるだけで学習しないと、常識の無い役立たずの人間になってしまう、といふ意味です。

要は「学習し思考する」ことです。自ら求めて学習し思考することが教育の原点です。『大学』に曰く「誠にこれを求めば<sup>あた</sup>中らずといへども遠からず」と。